国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和8年10月 29 日
松山港湾・空港整備事務所

四国の空港 RESA 整備事業として初となる ケーソン本体の据付を実施

～ 大型起重機船で約1,200tの「ケーソン」を吊り出し ～

松山空港では、航空機が「オーバーラン※1」または「アンダーシュート※2」を起こした場合に、人命の安全を図り、航空機の損傷を軽減させるため、空港の海側沖合に滑走路端安全区域（RESA※3）を整備しています。RESA を形成する護岸はケーソン（コンクリートで作られた箱状の構造物）で構成されており、今般、陸上で製作された重さ約1,200tのケーソンを大型起重機船で吊り上げ、空港沖に据え付けます。ケーソンの吊り出しを以下の日程で実施します。

※1 オーバーラン；航空機が離着陸する際に滑走路を超えて走行してしまうこと。
※2 アンダーシュート；航空機が着陸時に滑走路手前に着地してしまうこと。
※3 RESA；Runway End Safety Area

■ 内容：ケーソン【長さ 8m×幅 18m×高さ 14m、質量 1,200t（いずれも約）】1 函吊り出し
■ 日時：令和8年11月4日（水）①作業準備・開始 0：45～ ②ケーソン吊り出し 1：25～
※ 気象・海象状況により予定を変更する場合があります。
※ 作業時間は前後する場合がありますので予めご了承ください。
■ 吊り出し場所：帝人（株）松山事業所南地区（松山市西垣生町2345）※ 詳細は別紙1参照
■ 取材日時：令和8年11月 4 日（水） 0：30～2：00
■ 取材申込：
取材を希望される方は、下記をメールまたは FAX（別紙2取材申込書）にてお申し込みください。
申込み期限は、令和8年11 月 2 日（月）12:00 までとさせていただきます。

① 貴社名
② 連絡先（電話番号・メールアドレス）
③ 代表者氏名
④ 取材者人数
⑤ ヘルメット数

※当所で用意する必要がある場合は数量をお知らせください。



【問い合わせ先】 ◎主な問い合わせ先
国土交通省 四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所 TEL：089-951-0161
・副所長 國方 康史 ◎企画調整課長 竹村 慎治 MAIL：pa.skr-mtjm-i88s3@mlit.go.jp

別紙1

■ 位置図



国土地理院地図を基に、松山港湾・空港整備事務所が作成

■ 当日の作業内容



※写真は、令和6年2月17日に別現場で実施された作業の様子です。



陸上で製作されたケーソン

■ 注意事項

- 現地ではヘルメットの着用をお願いします。
  ※当事務所でヘルメットを用意する必要がある場合は、取材申込時に必要個数を記載ください。
- 足下の悪い場所での取材となるため、ヒールの高い靴などでの取材はご遠慮ください。
- 気象・海象状況により、ケーソン吊り出しが延期になる場合は、11月2日(月)17:00までにご連絡いたします。なお、当日最終判断で延期となった場合は、速やかにご連絡いたします。
- 写真撮影にあたっては、帝人(株)の施設が写真に写り込まないようお願いします。

別紙2

四国地方整備局
松山港湾・空港整備事務所　宛

FAX:089-967-6593

取材申込書

松山港滑走路端安全区域（RESA）護岸ケーソン吊り上げ作業

※作業延期時は記載の連絡先へご連絡いたします。

恐れ入りますが、令和8年11月2日（月）12時までにお申込みください。

貴社名			
連絡先	TEL： Mail:		
代表者氏名			
随行者	名	ヘルメット ※当所でご用意が必要な場合は、個数をご記入ください。	個
連絡事項など			

なお、メールでも申し込みを受け付けております。この取材申込書の必要事項を
【pa.skr-mtjm-i88s3@mlit.go.jp】へお送りください。

【注意事項】
- 陸上からの取材となります。
- 取材予定時間は、作業の進行状況などにより前後することがあります。
- 気象・海象状況等により予定を変更する場合があります。
- 取材希望者が多数の場合は、人数等の調整をさせていただく場合があります。

参考資料

■ 起重機船「武蔵」の概要

船　　名		武蔵（むさし）
所有会社		深田サルベージ建設株式会社
船体	長さ	107 m
	幅	49 m
	深さ	8 m
定格荷重		3,700 t



■ ケーソン据付

ケーソン据付については取材対象外となります。



国土地理院地図を基に、松山港湾・空港整備事務所が作成

■ 松山空港整備事業の概要

四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所では、松山空港の海側沖合に RESA 用地を拡張するため、令和６年度より、陸上ではケーソン製作、海上では捨石投入を施工しています。今回は RESA 護岸として初となるケーソン据え付けを行い、今後、RESA 整備が本格化していきます。

